

・Mさん、陽子さん、勉強会の開催ありがとうございました。

固まるというのは「どう反応していいかわからない」状況だと思のですが、「人にはいろいろな考え方があるし、正解も不正解もないし...、うーん...」と、ただ聞いているだけで、まさに固まっていました(勉強会の中で「これはスルーだ」と指摘がありました)。

「具体と抽象」のことを事例を交えながらかなりの時間を割いて解説していただき、これが今回のキーワードであったと思います。

自分の価値観には今までなかった概念→なぜその人にとって大事なのが理解できない→だったら聞けばよい、そのメカニズムが分かれば良い→メカニズムを理解するのに必要なのが「具体と抽象」である、という一連のお話でした。

以前読んだ本にASDの特性の一つとして「複数の情報を統合して全体を理解することが困難」(中枢性統合が弱い)ということが挙げられていたのですが、これがまさに具体と抽象を表していると思います。

私は普段から一つの事象に対して一つずつ対応策を考えているようで、事象が10個あれば10通りの対処方法を考えます。

他に応用できないから初めてのことに対処できません。10個に共通する背景や感情はないか？以前似たようなケースはなかったか？と想像することが抽象化であり、ここをしっかりと考えないと本当の理解に繋げることはできないのだと捉えました。

陽子さんが抽象化の事例として社長と若手の方との会話を挙げられました。私は陽子さんの説明を全て聞くまで社長の言わんとすることが全く分からなかったのですが、ここまで丁寧に考えなければ抽象化はできないことに驚き、これは今の私には時間がかかりそうだと思いました。

とは言っても今まで無意識にこなしていることもあるはずで、その時の感覚を再現できればよいのではないかと考えました。

学校の勉強では何らかの法則を自分で見つけることに楽しさを感じていたのに、対象が人の考えや感情になると教科書的な正解がなくて難しいのかもしれない。

浅い考えのまますぐに対応するのではなく、ものの片付けと同じように、事象を分類して取り出しやすいように整理して頭の中に収納する繰り返しが今の私には必要なんだと思います。

(さわら 50代女性 兵庫県西宮市)